



雪と氷の研究者に インタビュー



かしわせ
柏瀬 はるひこ
陽彦さん

国立極地研究所 気水圏研究グループ

(2018年7月現在)



**どうして雪、氷の研究に興味をもったのですか？
また雪と氷の魅力を教えてください。**

直接のきっかけは特にありません。小さなきっかけが積み重なっていつの間にかこうなっていました。小学生の頃は一冬に2～3回しかない雪の日を楽しみにしている子どもでした。大学からは北海道に移りました。地球温暖化については昔から興味がありましてし、また北海道らしいことを学びたいと思っていたので、オホーツク海の海氷の研究を始めました。その後北極海や南極海にも手を広げています。雪と氷は学問的にも面白いテーマです。それ自体の成り立ちにも謎がたくさんありますし、気候変動や生物、化学、さらには社会とも密接な繋がりがあります。ただ私はそれ以上に人が立ち入れない大自然としての雪と氷に魅力を感じています。



ご自身の研究内容を教えてください。

海氷がどのような変化をしているか、人工衛星データを使って明らかにすることを目指して研究をしています。人間の眼では海氷はどれも白く写るだけで同じに見えますが、電波を使うと厚さによる違いが見えてきます。それを利用して、マイクロ波放射計というセンサーで観測されたデータから海氷の厚さを測る方法の開発を行っています。また、得られた厚さ分布を使ってある年に海氷が作られた量を計算し（詳細は省きますが、厚さと気象データを使って熱収支を計算しています）、それがどのような変化を示しているかを明らかにすることも大きなテーマの一つです。最近は現場観測と衛星観測とを直接比較する研究にも力を入れていますし、実用化されたばかりの無人機を使った観測手法にチャレンジしたりもしています。



子どもたちにむけてメッセージをお願いします。

私は大学に進学したとき、研究者を目指そうとは全く考えていませんでした。実際に研究をやってみて初めて意外と行けることを知ったのです。そういうのはよくあることです。皆さんもこれから自分に何ができるかを知っていきます（できないことはひとまず保留しておきましょう。いつの間にかできるようになっているかもしれません）。そしてそれを知るためには実際にやってみることが必要です。是非いろいろなことにチャレンジしてみてください。どれか一つでも長続きしたなら、素晴らしい発見をしたということです。是非それは誰かのために役立ててあげてください。最後になりますが、皆さんの中から将来南極や北極を目指す人が出てくることをとても楽しみにしています。